

屎、氣味辛平有毒、主治、蠱毒瘡疾、逐邪通淋、利小便、祛目翳、愈突眼、治口瘡、

〔甲子夜話<sup>三十</sup>〕加賀ニハ年々夏ノ中ニ、燕ヲ夥ク取リ鹽漬ニシテ貯ヘ、兵食ノ料ニ備フ、前田家ノ古法ト見ヘテ、昔ヨリソノ如クシテ、前年ニ鹽漬シタルハ弃テ新ト引換置クコト、年々違フコト無ト云、或云、息合ノ藥ナル歟ト、尙ソノ國人ニ問ベシ、林話

燕雜載

〔竹取物語〕中納言磯のかみのまろたりは、家につかはるゝをのこどものもとに、つばくらめのすくひたらば、つげよとの給ふを承て、何の用にかあらむと申、こたへての給ふやう、つばくらめのもたるこやすのかひをとらんれうなりとの給ふをのこどもこたへて申、つばくらめをあまところしてみるにだにも、腹になき物也、たゞし子うむ時なんいかでかいだすらん、はうくかと申、人だにみればうせぬと申、又人申やう、おほいつかさのいひかしくやのむねに、つくのあなごとに、つばくらめは巢をくひ侍る、それにまめならんをのこどもをゐてまかりて、あぐらをゆひあげてうかゞはせん、に、そこのつばくらめ、こをうまざらむやは、扱こそとらしめ給はめと申、中納言よろこびたまひて、おかしき事にも有哉、尤えまらざりけり、けうある事申たりとの給ひて、まめなるをのこども廿人ばかりつかはして、あななひにあげすへられたり、とのより使隙なぐたまはせて、こやすのかひとりとたるかとはせ給ふ、つばくらめも人あまたのぼりゐたるにおちて、すにもものぼりこすかゝるよしの御返事を申たれば、聞給ひて如何すべきとおぼしめし煩ふに、彼つかさのくわん人、くらつまろと申翁申やう、こやすのかひとらむとおぼしめさば、たばかり申さむとて、御前に參たれば、中納言額を合てむかひゐたまへり、くらつまろが申やう、此燕めこやすのかひは、あしくたばかりてとらせ給ふ也、扱はえとらさせたまはじ、あな、ひにおどろおどろしく、廿人のひとく、ののぼりて侍るなれば、あれてよりまうでこす、せさせ給ふべきやうは此あな、ひをこぼちて、人みなまゝりぞきて、まめならむ人をあらこにのせすへて、つな